

極性分子薄膜における分極の自発配向制御とその応用

Control and device application of spontaneous orientation of polar molecules.

2023年3月16日（木）13時30分～18時00分（予定）

上智大学 四谷キャンパス+オンライン（ハイブリッド開催）

極性分子を薄膜化するとその分極が自発的に配向する現象は低分子系、高分子系において2000年前後に独立に発見され、デバイスへの応用が検討されてきた。近年、極性分子の自発配向を積極的に利用した振動発電デバイスが開発され、それと同時に自発配向の制御方法に関する研究も活発に行われるようになるなど、本分野の注目が再び高まりつつある。本シンポジウムでは、近年盛り上がりを見せている極性分子の自発配向現象の歴史を振り返るとともに、その起源、配向制御方法、デバイス応用までを俯瞰し、今後の研究展開について議論する。

■ 招待講演者（敬称略・五十音順）

・ 杉田篤史（静岡大）

「プッシュプル型極性色素分子の
非晶性ポリマー中での無電界ポーリング現象」

・ 田中正樹（東京農工大）

「極性分子設計による蒸着薄膜の自発分極制御」

・ 田中有弥（群馬大）

「極性有機分子配向制御とその応用
：エレクトレット型振動発電素子の高出力化（仮）」

・ 野口裕（明治大）

「有機蒸着膜における自発的配向分極現象（仮）」

・ 羽馬哲也（東京大）

「極低温赤外多角入射分解分光法による分子性固体の構造と物性解析」

一般講演も募集しています（最大6件）

世話人：松原亮介（静岡大）、丸山伸伍（東北大）、中山泰生（東京理科大）、堀家匠平（神戸大）

問い合わせ先：matsubara.ryosuke@shizuoka.ac.jp